



「本物」 ～「民謡を楽しむ会」を終えて～

本ホームページトピックで紹介していますが、9月28日、「日本民謡梅若会」のみなさんをお招きし、3年ぶりに「民謡を楽しむ会」を行いました。

梅若会のみなさんには、迫力満点の歌声や、三味線・尺八等の味わい深い音色を、生徒一人一人に届けてくれるような温かいステージを創っていただきました。

生徒達は、めいっぱい楽しさや嬉しさを表現したり、感想を発表したりすることができました。その様子から、本物を体験したり、臨場感を醸し出したりする学習環境づくりは、コミュニケーションを広げる上での大切な支援の要素であることを実感しました。

生徒達にとって、大きな学びある時間になったことを大変喜ばしく思います。

「民謡を楽しむ会」の開催にあたっては、あきた病院の各所に相談を重ね、会場の借用、感染対策に係る丁寧な助言をいただきました。

物事を成すための計画を立てる時、「そもそもそれは必要なことか」という議論になることがあります。大切な視点ですが、一定のコンセンサスを経て必要さが確認された場合、「できるためにどうするか」と、知恵を出し合うことがさらに重要であると思います。

コロナ禍において、生徒達の学びを保障するために、病院と連携しながら実施できた「本物の体験」は、私たち教師にとっても大きな学びとなりました。

